



センター通信

森林技術・支援センター

森林技術・支援センターは、「森林・林業に関する技術開発及びその普及・支援」を行っており、今回その取組の一部を紹介し

平成27年度

技術開発成果

発表会

(平成27年11月9日)
道北地域における研究成果を広く知って頂くため、「技術開発成果発表会」を森林総合研究所北海道支所、北海道立総合研究機構林産試験場・林業試験場、森林技術・支援センターの共催で、林産試験場(旭川市)を会場に開催しました。

発表会には林業事業者、道・市町村をはじめ各方面から113名の参加があり、林産試験場の講堂が一杯になるほどの盛況となりました。

森林総研北海道支所の佐々木氏より基調講演、林業試験場道北支場の蓮井氏より、「経済性を根拠とした森林作業道(林業専用道)の整備方法について」

の成果が発表された他、林業試験場の津田氏、林産試験場の古俣氏からも発表がありました。

当森林技術・支援センターの南所長からは、「北海道型作業システムを踏まえた路網作設に伴う林業コスト低減の検証」と題して、北海道特有の地形条件(緩い傾斜)を利用し、林業専用道の路網密度を上げることで集材・搬出の効率化を図る「低コスト作業システムの開発」について取組状況と成果を発表しました。

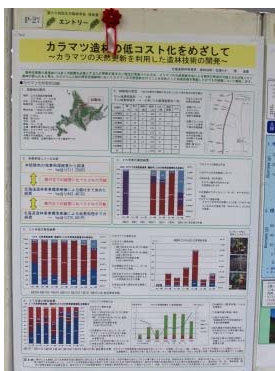


技術開発成果発表会にて「北海道型作業システム」について発表する南所長

第64回 北方森林学会大会 ・ 研究発表

(平成27年11月12日)
札幌市「札幌コンベンションセンター」において第64回北方森林学会大会が開催され、道内の森林・林業の研究機関・大学関係者等が日頃の研究成果をポスター・口頭発表しました。

当センターはポスター発表の造林部門で「カラマツ造林の低コスト化をめざして」くカラマツの天然更新を利用した造林技術の開発について発表し、森林管理に携わる一般会員を対象とした「技術賞」を受賞しました。



「技術賞」に選ばれたポスター発表



友田森林技術専門官による発表

平成27年度

国有林野事業業務 研究発表会

(平成27年12月10日)
林野庁において「平成27年度国有林野事業業務研究発表会」が開催されました。

3つの部門(森林技術・森林ふれあい・森林保全)に分けて発表が行われ、当センターは、森林技術部門(発表者は森林技術専門官)にエントリーし、「天然林での樹種の多様化を図る更新方法の開発」(森林総研北海道支所と共同研究)について発表しました。

今後、こうした発表会に積極的に参加し、センターの取組成果を紹介することとしています。